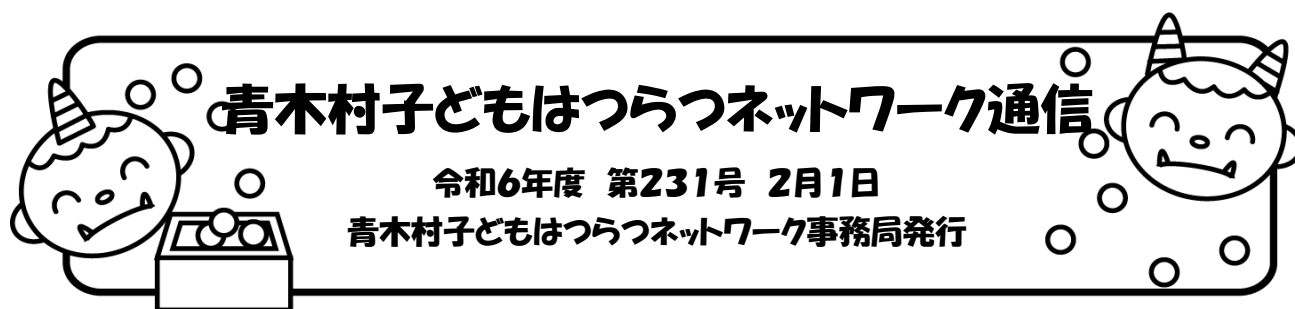




青木村子どもはつらつネットワーク通信

令和6年度 第231号 2月1日

青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行

昨年 11 月 30 日(土)に行われた子育てフォーラムでの発表と分科会の様子をお伝えします。



5 か条委員会発表

～第3条 時間の使い方のアンケート結果～

＜保小中一貫教育 5か条委員会＞

5か条委員会では、昨年度改定された「あおきっこ教育ポイント」5か条の「第3条 時間の使い方」の実態を知るため、7月に保育園の保護者、小学生とその保護者、中学生とその保護者にアンケートをとりました。



保護者には、オクレンジャーでアンケートを取り、小学生と中学生にはタブレットや紙面でアンケートをとりました。

質問項目は大まかにいうと、(1) 寝る時刻 (2) 起きる時刻 (3) 学習時間 (4) メディアの使用時間 (5) ショートメディアデーについての5つです。

これらの項目のうち、3つ目の家庭学習の時間は、保護者の把握が難しいと考えたため、児童・生徒だけにとりました。アンケートの集計結果から、以下のことがいえそうです。

(質問1) 平日の就寝時刻については、保育園・小学生共にほぼ10時前には就寝していることが分かりました。中学生は就寝時刻が遅くなり11時前が多かったです。中学校で

は親子間での相違が大きく、保護者が寝た後も起きている生徒が多いことが伺えました。



(質問2) 平日の起床時刻については保育園・小学生・中学生共に6時～7時の間に起きる子が多かったです。小学生・中学生の児童・生徒は5時から6時の間に起きている子も3割程いますが、保護者は子どもたちが起きていることを把握していない様子も見られました。おそらく出勤前で、時間が忙しいことも理由の一つと考えられます。



質問1の就寝時刻と質問2の起床時刻から、およその睡眠時間は8時間～9時間はとれていることも伺えました。数年前に、布団製造会社「東洋羽毛」の方の講演があり、保育園児で10時間、小学生で9時間、中高生で8時間の睡眠が必要であるというお話がありました。睡眠は体を休めるとともに、学習したことを脳に定着させるための大切な時間だそうです。塾や習い事などもあると思いますが、睡眠時間をしっかり確保することを大切にしてほしいです。

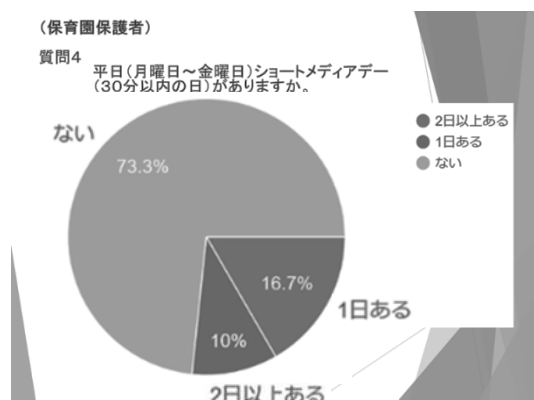
(質問3) 平日の学習時間については、小学生は、ほぼ学年×10分が定着しているようです。中学生については、1時間以内が6割、2時間以上の子も10%以上おり、個人差がありますがほぼ学年×10分は定着しているようです。



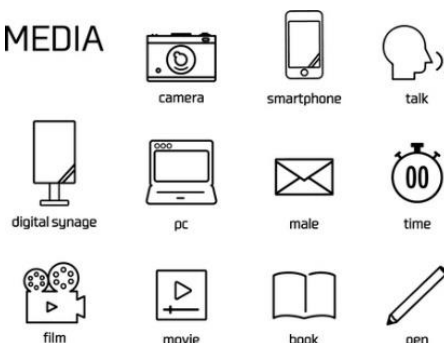
(質問4) 学習以外のメディアの使用時間については、保育園保護者と小学生保護者でほぼ同じ結果でした。7割の保護者は2時間以内と回答していますが、実際の小学生は3時間以上の子も15%ほどおり、保護者が思っている以上に多くの時間をメディアに使っているようです。

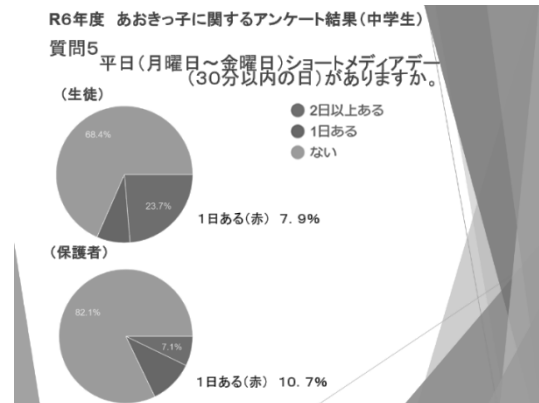
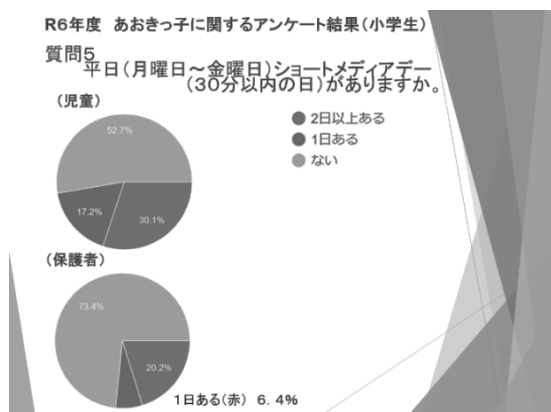
0～30分の割合は、小学生が25%、中学生になると12%と減少しています。年齢を重ねるごとに利用時間が少しずつ増加することが分かります。

中学生の生徒の3時間以上の割合は21%ですが、保護者は10%程度であったので、親が気づいていないところでメディアに時間を使っているようです。幼少期から電子メディア利用をきちんと把握することが大切です。



MEDIA





(質問5)の平日に『ショートメディアデー』がありますか、という質問については、「ない」と答えた保育園・小学校の保護者が70%以上、中学校の保護者では80%以上もいました。「1日ある・2日以上ある」と答えた保護者は、保育園・小学生共に30%弱ほどでしたが、中学校保護者は17%でした。

一方「1日ある・2日以上ある」と答えた小学生は47%、中学生は30%程いました。「ない」の割合は、小学生53%、中学生68%と高いです。親子間でズレはありますが、新しい5か条に加わった『ショートメディアデー』は、まだまだ浸透しているといえないようです。

ぜひ、今後各家庭で話題にいただき、親子共々30分以内の『ショートメディアデー』を定着させていきましょう。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。



第1分科会

「体、動かしていますか??」

<保小中一貫教育 小中連携委員会>

今年の小中連携委員会による分科会のテーマは、「子どもの遊びや運動の現状と課題を考える情報交換会」。ご講演をいただいた森山雅斗さんにも参加していただき、各家庭での外遊びやスポーツ、ネット利用の現状から話し合いをすすめました。



① お子さんの外遊び、運動について

保、小、中の各家庭での外遊びやスポーツについての現状を話してもらいました。

- ・平日は、外で遊んだりできない。外遊びができる環境にないので、室内でトランポリンなどを整えているが、日曜日の午後には外で自転車に乗って遊んだりする。テレビを

見ていることが多い。

（保育園保護者）

- ・小学校の頃から運動派とインドア派に別れている様子がある。今のうちにたくさん遊んでほしいと思っている。インドア派の子は、体育でも運動量が少ない。車での送り迎えが多いことが気になる。歩くべきだと思う。（小学校教員）



- ・児童センターでは、現在も年齢に関係なく色々と遊べている。利用率も高い。水曜クラブといって地域の方も入って活動している。川遊びもできる。

（小学校保護者）

- ・部活で運動をやっているが、家ではタブレット携帯をよく使っている。勉強でも活用している様子だが、使いすぎている様子も見られ、制限をする必要性も感じている。

（中学校保護者）

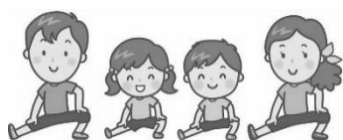
② 森山雅斗さんより

- ・ゲーム機を活用した運動もあるので、家族で一緒にやってみることもよいのではないかな。ゲームを家族で共有して、運動につなげていく言葉かけができると良い。
- ・大人がどうやって子どもたちの環境を整えてあげることが大切。子どもたちが遊ぶ環境を整えて、運動が好きになるきっかけ作りをしていけると良い。



③ まとめ

子どもの外遊びや運動の現状は各ご家庭で様々です。青木村には、児童センターがあり子ども同士や大人と遊んだり関わったりすることができます。運動公園などの施設も充実しています。難しく考えず、まずは体を動かしてみましょう。毎日できる気軽な運



動を見つけて、スポーツを親しむきっかけや仲間づくりの機会になればと思います。



第2分科会

「発達障がいの理解」

＜保小中一貫教育 特別支援教育委員会＞

第2分科会では、NPO 法人たと「たととキッズあおき」所長の飯島尚高さんにご講演をいただき、発達障がいの理解を深めました。

～たととキッズあおき 飯島さんより～

（１） たととキッズあおき通信

普段、発達障がいの理解について多くの方とつながる機会も少ないことから「たととキッズあおき通信」を発行していただいています。発達障がいの理解について多くの記事が掲載されており理解を深めるために大変役立ちます。「たととキッズあおき」のホームページからもお覧になれます。



（２） 発達障がいの理解

① 発達障がいの種類

発達障がいには自閉症スペクトラム症やADHD、学習障がいがあり、それぞれに特有の特徴と課題があります。それらは重なり合っており100人いたら100通りの特徴があるのです。見た目ではわからないのです。



② 幼少期の特徴と支援

障がいのある人は、みんなとなんら変わらないですが、苦労や困難があるのです。発達障がいの子どもの支援は、個々の特性に合わせた環境設定と個別指導が鍵になるのです。

③ 学校生活と発達障がい

一人は楽ですが集団生活をしなければならないです。発達障がいのある生徒は、集中力の欠如や対人関係の困難さがあり課題に直面することが多いです。教師は、課題を理解し、効果的な支援策を導入する必要があるのです。

④ 社会性の発達とサポート

障がいは治らないですが、目立たなくすることはできます。困難の幅を縮めることで生活が楽になるのです。発達障がいのある人々が社



会性を向上させるためには初期介入、個別支援、グループ活動の活用などの具体的なサポートの方法があります。

⑤ 大人になることと就労支援

発達障がい者はコミュニケーションや環境適応が難しいです。職場での合理的配慮やスキルトレーニングが有効な支援策といえます。



⑥ 発達障がいの理解の深化

知ることによって偏見を減らすことができます。社会的理解を深めるには、社会を生きるすべての人が偏見を減らし、個々のニーズを理解することが重要です。



⑦ 親と支援者の役割

個別のニーズを尊重し、親と支援者は定期的にコミュニケーションを取り、情報を共有することで、支援の質を向上させることができます。また、障がいをもつ方と接するときには、イメージできるような言葉や絵で伝えていくことが大切です。

(3) 会場に設けていただいた体験コーナー

① 自閉症スペクトラム者特有の聴覚過敏の体験。イヤホンをして音声を聞くが音量調節が難しく突然ざわざわと大きな音が聞こえてきます。

② 文字の読み取り体験。紙面全体を見ると文字のようなものがたくさん書かれていて、大事なことがどこに書かれているかわからないが赤いセロファンを通してみると文字がくっきり見えてきます。

③ 視野が狭くなる体験。キットをメガネのようにかけることで視野が狭まって見えます。

(4) 講演を終えて

誰もが幸せで、安心して暮らせる社会にするために、やはり、相手のことを思い、理解することが必要です。生活や学習について困難を抱えているのであれば、その困難さを理解し共有していくことが大切だと感じました。発達障がいへの理解を深める貴重な講演会になりました。



編集後記

ショートメディアデーを定着させて親子で運動ができるといいですね。

また、たととキッズあおきの飯島さんよりどんな子どもでも思いやりを持って相手を理解する重要性を教えてくださいました。誰もが幸せで安心して暮らせる青木村であってほしいと思いました。

